



帝京大学 国際化アニュアルレポート

Teikyo University
Annual Report on Internationalization

帝京大学国際化推進室

目次

理事長・学長メッセージ	1
国際化推進室長挨拶	2
I. 帝京大学の国際化	
1. 国際化の沿革	3
2. 国際化のビジョン	4
3. 帝京グローバルコンピテンシー	5
4. 国際化推進体制	6
5. 海外提携校・機関	7
II. 国際化の取り組み	
1. 特集「海外との交流活動の再開」	9
2. 国際化推進室	13
3. キャンパス	
板橋キャンパス	16
八王子キャンパス	19
宇都宮キャンパス	22
福岡キャンパス	24
ダラムキャンパス	26
4. センター・研究所	27
III. 資料	
1. 2022 年度更新協定一覧	29
2. 外国人留学生在籍者数	29
3. 学生の海外派遣実績	33

理事長・学長メッセージ

このアニュアルレポートは、帝京大学における教育・研究両面における国際交流活動を包括的に整理するとともに、その状況を学内外に広く開示し、本学の国際交流全般に関する情報発信を行うことを目的として、昨年度より発刊されています。今回、2022 年度における国際交流活動に関するアニュアルレポート第 2 号の発刊を喜ばしく思います。

2022 年度はコロナ禍で中断のやむなきに至った各種交流活動の再開を見るに至りました。「リアルな」交流が持つ重要性・意義について改めて認識することができたように思われます。一方において、コロナ禍において培われた各種 ICT 技術を活用した教育実践の経験は、国際交流の分野においても引き続き有効に活用していくことが望まれます。「リアル」と「バーチャル」双方の利点を相乗するようなハイブリッドの国際交流の方法を一層探求することが、本学の今後の国際交流活動を考える上でも意義のあることではないかと期待されます。

また、昨今の国際情勢の混迷・複雑化は、国際交流活動にとって様々な困難をもたらしていますが、このような時代にあっても、異文化理解能力やコミュニケーション能力の向上につながる国際交流活動に取り組む必要性がますます増していると考えます。この意味において、すでに策定済みの「帝京グローバルコンピテンシー」は、私たちの日常における国際化のロードマップとして、広く活用いただくことを期待します。

本学としては、学生のモビリティに係る各種プログラムの更なる拡充、キャンパスの国際化の一層の推進、及び研究交流を含む海外提携校とのネットワークの強化・拡大を引き続き進めていくことが重要と考えています。さらに、政府の「教育未来創造会議」の提言を実行に移すことを通じて、国際交流面での、大学としての社会的役割を果たすことが求められています。

引き続き皆様の御理解・御協力をお願いします。



冲永 佳史

帝京大学 理事長・学長

国際化推進室長挨拶

国際化推進室は 2021 年 4 月の設立から丸 2 年を迎えます。その目的とするところは、帝京大学の国際化の取り組みを強化・推進することであり、この目的に照らし学長直下の組織として学内機構上の位置づけがなされています。

国際化推進室のこれまでの活動は、理事長・学長メッセージの発出による帝京大学の国際化のための方向性の明確化と「帝京グローバルコンピテンシー」の策定・普及を通じた国際化へ向けた全学の関心の喚起という、いわば国際化のための基礎工事といった性格をもった作業と並行して、実務的には、海外提携大学・機関との交流協定等の一括管理の体制整備、海外からの研究者の受け入れ促進に係る各種事務を担うとともに、キャンパス間の連携の円滑化とシナジ－の実現に特に力を注いできました。今回、発行の運びとなったアニュアルレポート第 2 号は、帝京大学全体の教育・研究面の国際交流活動を俯瞰するのみならず、キャンパス間の情報共有と相互啓発を通じて、国際化の相乗効果を創出することを意図するものでもあります。

教職員の皆様には、このような趣旨をお汲み取りいただき、本レポートを御活用願えれば幸いです。未筆になりましたが、本レポート作成にあたり情報提供の労を快諾いただいた関係者の方々に対しまして厚く御礼申し上げます。

西岡 淳

国際化推進室 室長
外国語学部国際日本学科 教授



I. 帝京大学の国際化

1. 国際化の沿革

本学は開学以来、建学の精神に則り、異文化理解の学修・体験を重視してきました。1980年代は研究面での国際交流を進め、1990年代の大学設置基準の大綱化以降は、教育の国際化を推進するため、海外拠点の設置や、世界の名だたる大学と海外交流協定を締結し、欧米を中心とした学生の海外派遣に積極的に取り組んできました。

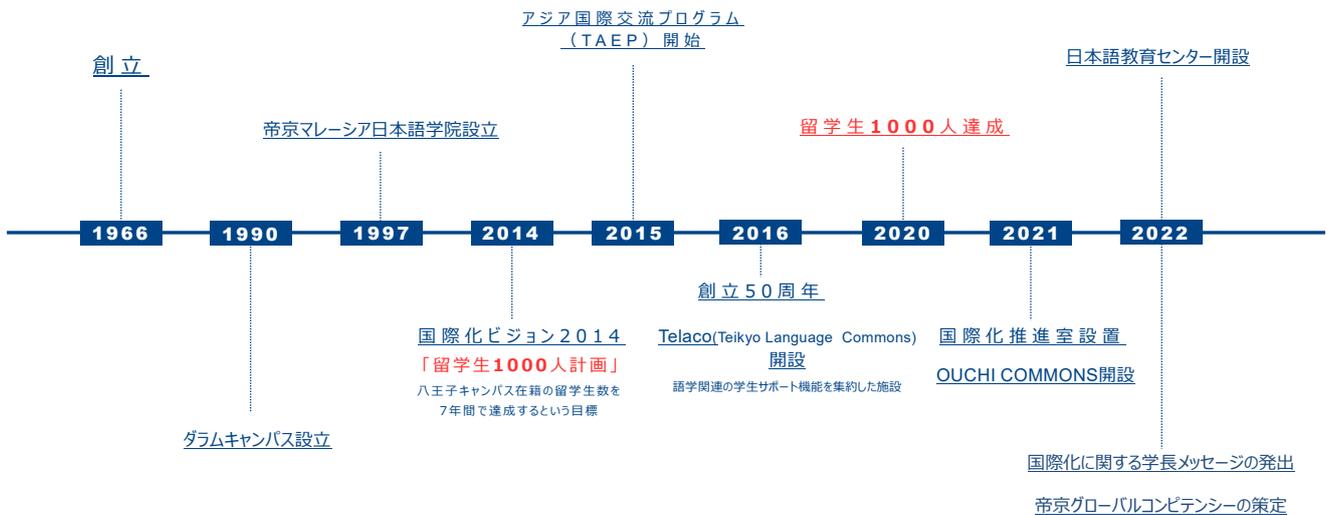
2000年代は留学・研修のプログラムや制度の拡充や、海外協定校との関係強化を図りました。さらに、2016年の創立50周年に合わせて、アジアやオセアニア、中南米を中心とした海外派遣・留学生の受け入れを強化し、多様性の向上を図ってきました。その結果、2010年度に約500人だった留学生は2020年度には1000人を突破しました。

2016年に語学学習専用施設「Telaco」を、2021年には日本人学生と留学生の交流施設「OUCHI COMMONS」を八王子キャンパスに開設し、日常的な交流を通してグローバルな視野を考える姿勢を育んでいます。

2019年12月、世界的に蔓延した新型コロナウイルス感染症で海外との直接的な往来が制限され、教育・研究においても国際的な活動が停滞を余儀なくされました。しかし、本学ではオンラインを活用するなど、可能な限り海外との交流を継続しました。

そして2021年4月、本学の教育指針の一つである「国際性」に従い、本学の国際化をより充実すべく、学長直下の組織として「国際化推進室」を設け、次の時代を見据えた国際化のための取り組みを拡充・強化することとなりました。

これからの帝京大学は、学内における部門や立場の垣根を越えて、それぞれの専門性を活かしながら、国際交流で培ったリソースを共有し、諸活動における連携を深めていく取り組みを進めていきます。



2. 国際化のビジョン

帝京大学は、1966年の創立当初から国際的視野に立って判断ができる学生の育成を目指した教育を建学の精神に掲げてきました。それをもとにした3つの教育指針「実学」「国際性」「開放性」は、複雑な課題に地球規模で取り組むグローバル化した今の時代にこそ必要なものです。

帝京大学 建学の精神 1966年

努力をすべての基とし 偏見を排し 幅広い知識を身につけ

国際的視野に立って判断ができ

実学を通して創造力および人間味豊かな 専門性ある人材の養成を目的とする

教育指針

実学

国際性

開放性

自分流

—帝京大学が示す生き方の哲学—

自分のなすべきこと、興味があることを見つけ、生まれ持った個性を最大限生かすべく知識や技術を習得し、自分の力として行動する

since 1966

帝京大学の国際化の目的

どこにいても、グローバルに、普遍的な視点での観察力、判断力が求められる時代

- ひとりひとりがグローバル社会とつながっていることを意識して、自ら行動する人を育てます
- すべての学生と教職員が参加する国際化、そして大学が一体に
- 優れた教育と研究力に根差して、実学と開放性の総合力で社会に貢献します

帝京大学の国際化の取り組みは、未来を切り開き、より良い社会を実現します

帝京大学の国際化推進

学長メッセージ 2021

実学と開放性 総合大学の力で貢献

4キャンパスと医療系、理工学系、文科系の分野開放的な実学で、身近な国際化の実現、グローバル社会の役に立つ

帝京グローバルコンピテンシーの醸成

どこでも国際化とつながる現代社会の中で生きぬく力

国際化を日常化

グローバルエッセンスのある環境、教育、仕事、そして研究

2021

次の世紀にも なくてはならない大学へ

「自分流」の帝京大学 その国際化への挑戦は続きます

3. 帝京グローバルコンピテンシー

コンピテンシーとは、優れた力を発揮する人が持っている能力や資質、行動特性のことです。

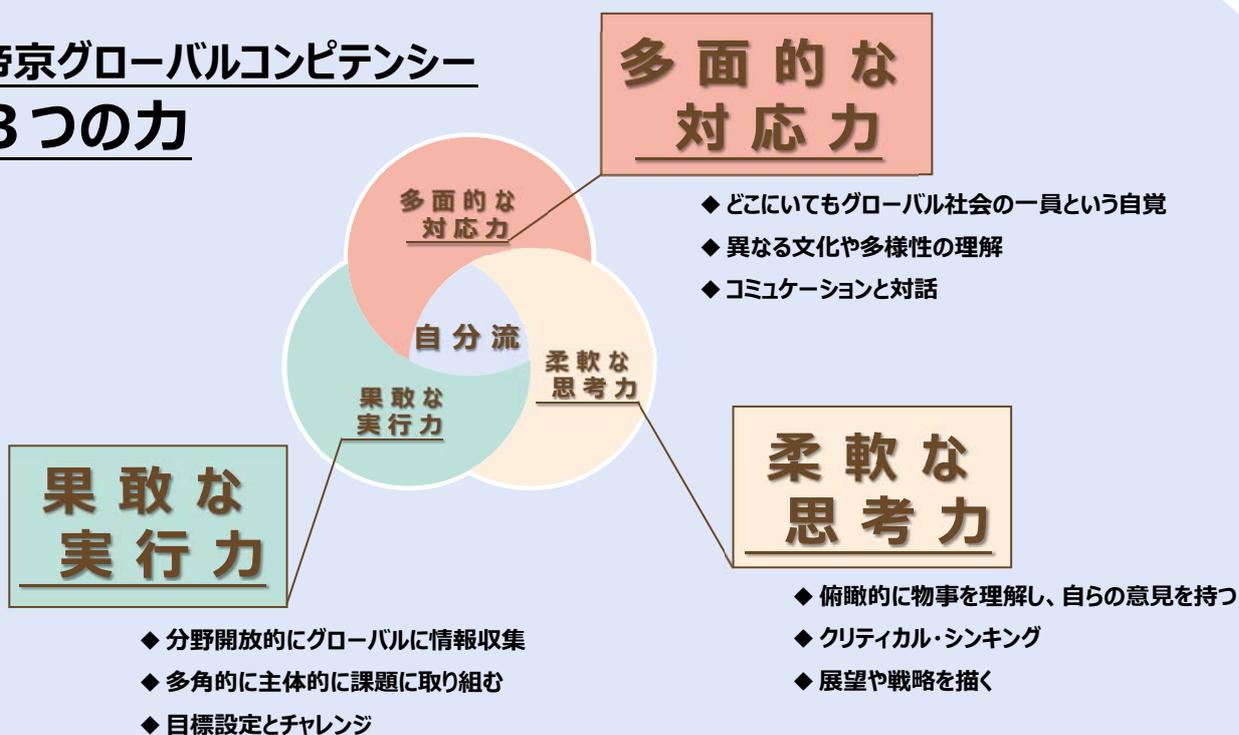
帝京グローバルコンピテンシーは、帝京大学で国際化をより良く実現するための能力と資質のことです。

これは、国際的な活動をする人だけが備える能力ではありません。

どこにいても国際社会と自分を結び付け、「自分流」を目指して行動する。帝京大学にかかわるすべての人が持っていたい能力のことです。

帝京大学では、大学全体での国際化推進のため、日常のグローバル化を意識し、
持続可能な社会を目指す一員^{メンバー}という自覚を持った、学生・職員・教員の3つの力
—多面的な対応力、柔軟な思考力、果敢な実行力—を育みます。

帝京グローバルコンピテンシー 3つの力



帝京グローバルコンピテンシーは、学内での開かれた議論を通じて、学生、職員、教員・研究者それぞれに具体的な内容が定められました。帝京グローバルコンピテンシーを醸成できるよう、教育への導入、制度の設計、環境整備、海外提携校との交流、イベントなどの場づくりを行い、帝京大学で身近な国際化を感じ、大学に集うすべての人が国際化を日常化できるようにします。

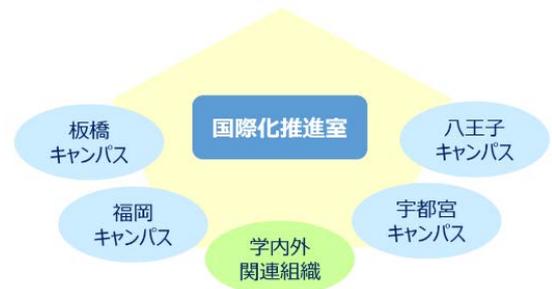
帝京グローバルコンピテンシー 帝京に集う学生・職員・教員と研究者のために

	多面的な対応力	柔軟な思考力	果敢な実行力
学生	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分がグローバル社会の一員であると自覚する 2. 自分の文化と歴史を理解したうえで、異なる文化も理解して、どちらも尊重する 3. 自分と背景が異なる人を受け入れ、コミュニケーションを取る 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な価値観や、異なる文化を持つ人の意見を吟味して、自らの意見を考える 2. 国内外に視野を広げて考え、専門分野の方法で分析する 3. 分野を越えた学びを通じて考える力を養い、グローバル社会を生きぬく長期的な人生の準備をする 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 興味があることについて、分野や国内外の壁を越えて情報を収集して共有する 2. 多様化するグローバル社会の中で、自らの好奇心を追究し、目指すべき目標を設定する 3. 学生時代の目標に到達するように、帝京大学の国際的な環境を最大限に活かしてチャレンジする
職員	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の仕事と生活と、グローバル社会とつながりを認識する 2. 帝京大学を、多様性に富んだグローバルな人材が集まる場として尊重する 3. 国や背景を問わず、大学に集う人を受け入れ、コミュニケーションを取る 	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル社会での大学の位置づけを意識し、大学の課題と自分の役割を考える 2. 所属する部門やキャンパス、国や文化を越えて多様な意見を吟味し、自分の意見を形成する 3. 多様で国際性に富んだ帝京大学の環境を、仕事に活かす思考を持つ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 所属する部門やキャンパス、国内外の壁を越えて情報を収集して活用する 2. グローバルで多角的視点を持って、積極的かつ主体的に業務の課題に取り組む 3. 帝京大学の国際性を活かし、グローバル社会に生きる自分のキャリアゴールに到達するようチャレンジする
教員・研究者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 異なる文化の学生や教員、国内外の研究者らと協働し、多様性を尊重する 2. 留学生や共同研究者、実務家など異なる背景の人と対話する 3. 一般の人や学生に、世界最新の知見や研究成果をわかりやすく伝える 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界的な大学教育のあり方を意識して教育に取り組む考えを持つ 2. 学問分野や国の垣根を越えた教育と研究の交流と議論に参加して、批判的に思考する 3. グローバルで多様性に富む帝京大学の環境を戦略的に活用し、研究と教育を計画する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル社会の動向を捉え、専門分野における国内外の情報を分野横断的に得て、研究や教育を行う 2. 国際的水準の教育と研究実施に挑戦し、その成果を発信する 3. 帝京大学の国際性を通じて、自らのキャリアゴールに到達する努力を継続する

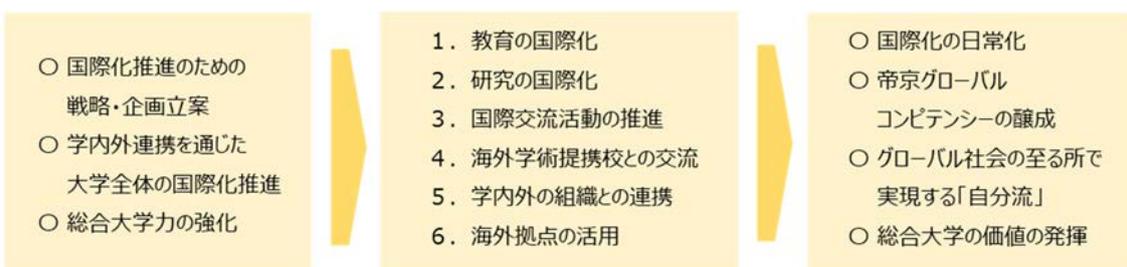
4. 国際化推進体制

帝京大学は、これまでは4つのキャンパスごとに国際的活動に取り組んできました。現在のグローバル社会における分野横断的な社会的課題に対応するため、そして帝京大学のすべての人が国際化を日常化する環境には、キャンパスや学部を越えて、帝京大学全体で国際化を一層加速させることが必須です。大学の社会的役割に資するため、本学に集う学生や教職員の成長のため、総合大学の価値をさらに高めて国際化に向かうことにしました。

そのため、2021年4月、学長直下の組織として大学全体で国際化を牽引する機能を備えた国際化推進室を立ち上げました。国際化推進室は、従来から4キャンパスにある国際部門や委員会のもとより、関連する学内外の組織と連携します。そして、学長と共に大学全体の国際化をリードする戦略立案を行い、大学を俯瞰した情報収集や制度づくりなど、帝京の国際化のために働きかけます。



国際化推進室の役割



グローバル社会に生きる、帝京大学のすべての人の「自分流」と総合大学の力で
社会に貢献 未来をつくる 次の世紀もなくてはならない大学へ

5. 海外提携校・機関

2022年9月時点

Teikyo Global Network

Agreements with
95 overseas institutions

Europe
17

Asia
59

The Americas
12

Africa
1

Oceania
6

Europe

- イギリス UK**
ダラム大学
オックスフォード大学
ケンブリッジ大学
ケント大学
- スペイン Spain**
サンティアゴ・デ・コンポステラ大学
グラナダ大学
- フランス France**
オルレアン大学
クレルモン・オーヴェルニュ大学
- ドイツ Germany**
ゲーテ・インスティテュート
ライプツィヒ大学
- セルビア Serbia**
シンギドゥナム大学
- スイス Switzerland**
ヴォー保健科学大学
- ジョージア Georgia**
トビリシ国立大学
- ポーランド Poland**
ウッチ工科大学
クラクフ工科大学
- アイルランド Ireland**
ダブリンシティ大学
- フィンランド Finland**
トゥルク大学

ヨーロッパの 帝京大学海外グループ校



帝京大学ダラムキャンパス



帝京大学ロンドン学園高等部

Africa

- ケニア Kenya**
ケニヤッタ大学

Asia

- 中国 China**
吉林財経大学
ハルビン医科大学
北京第二外国語学院
北京語言大学
北京大学公衆衛生学院
上海交通大学
マカオ大学
天津市第一中心医院
山東交通学院
華東師範大学
西南大学
青海大学
河南大学
河北北方学院
- 韓国 Korea**
水原大学校
東亜大学校
水原科学大学校
済州大学校
漢陽大学校
釜山外国語大学校
嘉泉大学校
崇実大学校
韓国外国語大学校
- 台湾 Taiwan**
台北医学大学
義守大学
- フィリピン Philippines**
フィリピン大学マニラ校
アダムソン大学
デ・ラ・サール大学ダスマリニャス
- マレーシア Malaysia**
サンウェイ大学
- インドネシア Indonesia**
アトマ・ジャヤ・カトリック大学
ダルマプルサダ大学
ジェンダラル・スティルマン大学
i3L 大学
プレジデント大学
バンドン工科大学
- ベトナム Vietnam**
ホーチミン市外国語情報技術大学
ホーチミン市技術師範大学
ホーチミン市工科大学
ハノイ医科大学
ベトナム国立小児病院
ベトナム国家大学ハノイ校
グエン・タット・タイン大学
- マレーシア Malaysia**
マレーシア
- ラオス Laos**
ラオス国立大学
- タイ Thailand**
チュラロンコン大学
バンヤピワット経営学院
マヒドン大学
コンケン病院
- カンボジア Cambodia**
バニヤサストラ大学
メコン大学
ノートン大学
経営経済大学
- ミャンマー Myanmar**
ヤンゴン経済大学
- インド India**
アミティ大学

Oceania

- オーストラリア Australia**
ビクトリア大学
サザンクイーンズランド大学
グリフィス大学
ニューサウスウェールズ大学
ウーロンゴン大学カレッジ
- ニュージーランド New Zealand**
クライストチャーチ工科大学

その他

- UMAP
(アジア太平洋大学交流機構)
- UNHCR
(国連難民高等弁務官事務所)

The Americas

- アメリカ US**
ハーバード大学
コロンバス州立大学
カリフォルニア大学リバーサイド校
デラウェア大学
南カリフォルニア大学
トライン大学
インディアナ大学 - パデュー大学
インディアナポリス校
- カナダ Canada**
カルガリー大学
カレッジ・オブ・ザ・ロックーズ
ジョンキェール予科大学
バンクーバー・アイランド大学
- メキシコ Mexico**
パナメリカナ大学

アジアの 帝京大学海外グループ校



帝京香港幼稚園



帝京マレーシア日本語学院



Ⅱ. 国際化の取り組み

1. 特集 「海外との交流活動の再開」

2022年度春期 短期海外研修

2022年度短期研修を春期から再開しました。今回は春休み期間の約2～3週間、海外の協定校で語学学習・異文化体験をイギリス、ドイツ、オーストラリアで実施しました。4キャンパスの学生が参加し、他キャンパスの学生と交流する機会にもなりました。



イギリスコース

28名

(板橋:4名 八王子:10名 宇都宮:3名
福岡:3名 帝京平成:8名)

イギリス短期研修では、イギリス・ロンドンキャンパスに滞在しながら、レベル分けされたクラスで約3週間という短期間での英語の習得を目指します。同時に、博物館・城などの旧跡、市内観光など、歴史と伝統、そして最先端の文化も体験することができます。また、希望者のみ1泊2日のホームステイを実施しており、ホストファミリーを通して、現地の人びとの生活を体験し、文化交流を行う機会も設けています。

ドイツコース

11名

(板橋:1名 八王子:10名)

ベルリンの中心地から南東に位置する旧帝京大学グループ・ベルリンキャンパスは、ツォイトナー湖を望み、美しい自然に囲まれています。キャンパスには宿泊施設が併設され、コインランドリーやミニキッチンなど、長期で滞在できるような設備が整っています。

ドイツの短期研修は、旧帝京グループベルリンキャンパスで英語とドイツ語を両方学ぶことができるプログラムです。チェコのプラハに訪れるなどアクティビティも充実しています。

オーストラリアコース

15名

(板橋:5名 八王子:9名 宇都宮:1名)

グリフィス大学付属語学施設 GELI では、クラス分けテストを行い、レベル別に分かれて、他国からの留学生と一緒に英語を学びます。滞在は現地が手配するホームステイのため、日常生活においても英語を使う環境が整っています。課外活動では、海に行ったりバーベキューをしたり、海に近い立地ならではの活動も特徴です。都心へのアクセスも良好なので、市街地での観光も楽しむことができます。

医療技術学部の学生が マヒドン大学の学生交流に参加

2022年8月25日～28日、帝京大学医療技術学部臨床検査学科の学生が、タイ・マヒドン大学の学生との交流会に参加しました。同大学とは2020年11月より学生交流に関するMOUを締結しています。新型コロナウイルス感染拡大の影響により学生交流ができない状況でしたが、今回、先方の招待を受ける形で延期となっていた交流会を実現することができました。当日は、同学科3年生3人と教員1人が訪問し、学生による大学紹介、研究室見学、病院見学、学生間でのディスカッションなど、濃密な時間を過ごすことができました。また、滞在中はすべて英語でのやりとりとなり、学生は英語漬けの4日間を過ごすことで国際感覚を身につけることもできました。今後もさまざまな交流が期待されます。



新型コロナウイルス感染拡大の影響により海外との渡航が制限され、中止を余儀なくされていた海外との交流が、各国の入国規制緩和により本学でも2022年度には本格的に留学や海外研修などが再開しました。板橋キャンパス医療技術学部臨床検査学科では、本学と国際交流協定を締結しているタイ・マヒドン大学へ学生が訪問しました。また、イギリス・ダラムキャンパスでも学生の受け入れが3年ぶりに再会するなど、コロナ禍以前の活気が戻ってきました。

特集では「海外との交流活動の再開」をテーマに、学生、教職員の活動を紹介します。

外国語学部外国語学科 GCP

(Global Campus Program: 外国語学科全員留学)

2022年前期セメスターよりダラム留学、交換留学といった少人数プログラムの海外派遣を再開しました。

後期セメスターには、外国語学科 Global Campus Program を再開し、300名以上の学生を海外に派遣しました。コロナ禍で海外派遣を延期していた3学年、および2学年同時に留学を再開。現地でのコロナ対応や出入国の制限を取りまとめたうえで出発となりました。

さらに、2月には短期研修の春期プログラムを再開させ、コロナ前と同様のプログラムの募集、派遣ができるようになりました。



経済学部 TAEP

(Teikyo-Asia Exchange Program:
帝京大学アジア国際交流プログラム)

TAEP は活動を本格的に再開しました。TAEP は日本とアジア地域の発展に貢献する人材育成を目的に設立されたプログラムで、現在東南アジア7カ国の大学と協定を結び、留学生の受け入れ及び提携校への学生派遣を行っています。TAEPはコロナ禍に伴い、2020年度、21年度と大幅に活動が制限されましたが、22年度はほぼ通常どおりとなり、活発に活動を行いました。学生の受け入れでは、東南アジアの提携校6校から計14名の留学生が来日、留学生たちは八王子キャンパスで英語プログラム授業を受けるとともに、授業以外にも国際機関日本アセアンセンターとのダイアログを計2回実施し、アジア経済・政治情勢に関して活発な議論を交わしました。また、長期休暇中に実施された日本語集中講座では、授業の一環として書道部を訪問、書道部の学生たちの指導の下、書道を体験しました。学生たちにとっては、日本文化に触れる貴重な体験となりました。また、2年にわたり派遣を中止した海外研修も再開され、秋学期に実施された長期研修(1セメスター)ではタイ、ベトナムの2カ国に計5名、3月の短期研修(約2週間)ではカンボジア、フィリピン、タイ、ベトナムの4カ国に計9名が派遣され、提携校で現地学生と一緒に学習するとともに、東南アジアでの生活を体験しました。





Ⅱ. 国際化の取り組み

1. 特集 「海外との交流活動の再開」

ウシャク大学の ワークショップに教職員が参加

2022年6月8日～10日、トルコ・ウシャク大学が主催するInternational Staff Week に、帝京大学理工学部長・荒井正之教授ら教職員4名が参加しました。“Re-connection in New Era”(新しい時代の再連携)というテーマに沿って、16カ国34大学から参加者が集まり、各大学のプレゼンテーション、エラスムス協定の説明、施設紹介等、さまざまなプログラムを実施しました。またウシャク大学長 Ekrem Savas 氏と同学工学部長 Idris Kabalci 氏への表敬訪問の時間を設け、同学国際課の職員の方と交換留学プログラムに係る実施・サポート体制や諸課題の確認および検討を行うこともできました。

広大で明るい雰囲気のカンパスを有する同学の滞在中は、学長はじめ教職員やボランティア学生が、非常に熱心かつ好意的に対応してくれました。今回の訪問にて相互の信頼関係を確信するとともに、学術交流をより深耕するきっかけとなりました。



ベトナム市場でアース製薬製品の マーケティング戦略を提案する 海外研修プログラムを実施

帝京大学と近畿大学は、2018年に共同キャリア教育プログラムに関する協定を締結し、毎年合同でベトナムでの海外研修プログラムを実施しています。新型コロナウイルス感染症の影響により2020年はプログラムを中止、2021年は現地渡航を見送りオンラインで実施しました。

今年はベトナムの感染症危険情報レベル引き下げに伴い、ワクチン3回接種が完了していることを参加条件として、現地渡航を含む研修を3年ぶりに再開しました。今回のプログラムでは、2022年8月21日(日)～27日(土)の期間、ベトナム・ホーチミン市においてアース製薬株式会社(東京都千代田区)の製品である蚊とり器「アースノーマット」のベトナムでの市場開拓という課題解決に挑戦しました。

プログラム期間中は、本学学生16人、近畿大学生16人の合計32人が混合で8つのグループを形成し、現地のホーチミン市経済金融大学の学生と協力して、ホーチミン市での市場視察やアンケート調査等を行い、「アースノーマット」のベトナムにおけるシェア拡大および市場開拓というミッションに挑戦しました。また、帰国後にはアース製薬株式会社代表取締役社長川端克宜氏に、学生が考案したベトナムでのマーケティング戦略についてオンラインでプレゼンテーションを行い、本プログラムの総括となりました。



ザンビア大学付属教育病院(付属国立心臓血管外科病院)における教育および実技指導

2022年8月21日～2022年9月3日、そして2023年3月18日～2023年3月31日に、特定非営利活動法人 TICO を主体として、ザンビア共和国にて、福岡医療技術学部医療技術学科の廣浦学教授と輪内敬三助教が心臓血管外科チーム養成プログラムにおける現地臨床工学技士養成のための教育および実技指導(体外循環・血液浄化・成分分離装置等の操作や医療機器の修理・保守管理)を目的とした活動を行いました。現地の手術に参加し、実際に機器を扱いながらの説明や、手術前に講義形式にて指導を行いました。3月の活動では、アンゴラ共和国の保健大臣が視察に来訪し、支援への関心を得て、今後のアンゴラ共和国との医療支援の可能性について話し合いを行いました。

人種的気質や文化の違いによる考え方の違いなどの新しい発見や、事前情報の不足(現地の医療制度やニーズ)、スタッフの疲労により教育が予定通りに進まなかったことなどの課題が見つかりました。



トゥルク大学と新規・国際交流協定締結

2022年9月6日、帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座はフィンランド・トゥルク大学内科学講座と共同研究や研究交流活動に関する講座間交流協定を締結しました。トゥルク大学は7つの学部を持つフィンランドの国立総合大学で、約23,000人の在学生のうち5,000人は博士課程の学生です。

今回、交流協定を締結したトゥルク大学内科学講座教授 Teemu Niiranen 氏の研究グループは、本学医学部衛生学公衆衛生学講座主任教授 大久保孝義、同講座教授 浅山敬と2010年ごろより交流があり、現在も活発に国際共同研究を行っています。

本交流協定は、本学がフィンランドと結ぶ初めての協定です。今後、更なる医学・公衆衛生学領域での研究交流が期待されます。



2. 国際化推進室

国際化推進室は、本学の建学の精神と教育指針の一つである「国際性」に基づき、本学の国際化をより一層充実すべく 2021 年 4 月に、学長直下の組織として設置されました。

設置から 2 年目となる 2022 年度は、2021 年 12 月に理事長・学長メッセージで掲げられた「帝京グローバルコンピテンシー」の周知と「国際化を日常に」することを目的として、4 キャンパス合同の「グローバルチャレンジセミナー」の実施や、学食イベントの企画・実施をしました。さらには、国内外の大学とのネットワーク作りと本学のプレゼンスを高めるため、JASSO 主催のオンライン留学フェアや、EAIE、APAIE という国際教育交流大会に初めて参加しました。

次の時代を見据え、学生、教員、職員ひとりひとりが国際化に携わり、国際化が日常化し、本学の教育・研究・仕事の必ずどこかでグローバル社会と結びついていく、そんな大学にするために、国際化推進室はこれからも取り組みを拡充・強化していきます。

EAIE2022 バルセロナ大会への参加

2022 年 9 月 13 日～9 月 16 日、スペイン・バルセロナで開催された EAIE (European Association for International Education) 主催の欧州最大の国際交流コンベンション、EAIE 2022 に帝京大学が初出展しました。本コンベンションには、世界 89 国からの出展があり、日本からも JASSO、JAFSA 等の教育機関も含め 23 大学・機関が参加しました。

会期中は、既に本学と提携している大学と交流状況に関する情報交換や、これまでに交流のなかった多数の大学と面談を実施しました。また開会式では、アフガニスタン出身のジャーナリストで教育財団の設立者である Yalda Hakim 氏の講演が行われたほか、国際交流に関するセミナーやポスターセッション等が実施され、世界各国の最新の国際教育動向について貴重な情報を得ることができました。今回の交流をもとに、本学はさらなるネットワークの拡大と国際化を進めていきます。



APAIE2023 バンコク大会への参加

2023 年 3 月 13 日～3 月 17 日、タイ・バンコクで開催された APAIE (Asia-Pacific Association for International Education) 主催のアジア太平洋地域の国際交流コンベンションである APAIE2023 に帝京大学が初出展しました。大学を始めとした高等教育機関関係者が参加した本コンベンションは、参加者が約 2,700 人とコロナ禍前を通して APAIE としては過去最高の数字となり、国際交流に向けた世界の大学の意気込みが感じられました。

大会では、既に本学と協定を提携している主にアジアの大学との関係強化や交流促進について協議し、これまで交流のなかった多数の大学とも面談を実施するなど、積極的な情報交換をしました。また、参加した多くの日本の大学とも、大学の国際化に関わる様々な意見交換をする機会を得ました。本コンベンションでは「Towards a Sustainable Future for International Education in the Asia Pacific (アジア太平洋地域における国際教育の持続可能な未来に向けて)」をメインテーマに、国際交流や国際教育に関するセミナーやポスターセッション等が実施され、世界各国の最新の動向について貴重な情報を得る機会となりました。今回の交流をもとに、本学はさらなるグローバルネットワークの拡大と国際化を進めていきます。



2022 年度 JASSO 主催 日本留学オンラインフェアへの参加

本フェアは、日本を含む各国・地域の学生が日本への留学や進学を志し、かつ、希望に合った高等教育機関を選択し、日本で実りある留学を達成できるよう、独立行政法人・日本学生支援機構(JASSO)が主催で行ったフェアです。日本国内の国公立大学 69 校や私立大学 29 校が参加しました。本学は、日本留学オンラインフェアに参加し、教育の特徴、入試情報、減免・奨学金制度、そして留学生とのトークセッションを含め、プレゼンテーションを行う機会を得ました。本学のプレゼンテーションには約 180 名程度の参加者がありました。日本国内外の高校生・大学生等の日本留学希望者、高校等の進路指導担当教員らが視聴していました。今後、本学への留学希望者が増えることを期待しています。

学食グローバルウィーク イベントの企画・実施

国際化推進室では、板橋キャンパスの学生食堂ゴデレッチョと協働し、学生、教職員に帝京大学が持つ海外への広がりや魅力を伝え、帝京グローバルコンピテンシーの理解を深め、グローバルマインドを醸成するため、第 1 弾ベジタリアンフード、第 2 弾ケニア料理を提供しました。

第 1 弾「ベジタリアンウィーク」

第 1 弾では、大豆ミートを使用したメニューを考案しました。大豆ミートとは、主に油分を絞った大豆に熱や圧力を加えて乾燥させることで、お肉のように見立てた加工食品です。大豆たんぱく、大豆肉などと呼ばれることもあります。

【メニュー】

- ①大豆ミートベジタリアンカレー：2022 年 6 月 27 日～7 月 1 日
- ②大豆ミート麻婆豆腐丼：2022 年 7 月 4 日～7 月 8 日



第 2 弾「TEIKYO GLOBAL NETWORK 世界の料理週間 (ケニア編)」：2023 年 3 月 13 日～3 月 17 日



【メニュー】

ケニアの代表的な料理のワンプレートと副菜 1 品
〜ギゼリ (豆と肉のトマト煮)+ウガリ (とうもろこし粉のマッシュ)〜

2022 年 3 月、ケニアの国立ケニヤッタ大学と、アフリカ地域としては本学初となる交流協定を締結しました。

2023 年 2 月には、本学薬学部環境衛生学研究室の山本秀樹教授、外国語学部外国語学科の大場麻代准教授がケニヤッタ大学、並びに、ジョモ・ケニヤッタ農工大学 (交流協定協議中) を訪問したことから、今回はケニア料理を提供することとなりました。

ガーナ剣道協会への防具寄贈

2022 年 11 月 12 日～13 日、ガーナ共和国のアクラ・スポーツスタジアムで第 22 回柔道大会・第 8 回空手大会・第 3 回剣道大会が開催されたことを機に、帝京大学医学部小児科医師 遠海重裕の発案で、本学剣道部および本学職員の国際貢献プロジェクトとしてガーナ剣道協会に剣道防具 21 セットを現地の日本大使館を通して寄贈しました。

ガーナでは 2013 年に吉村馨全権大使が剣道教室を開き、その後、大使館医務官であった遠海医師らにより継続されてきましたが、慢性的な防具不足や壊れても修理できないなどの問題がガーナ人剣士より報告されていました。そのような状況の中で、2021 年 12 月、本学理事長・学長 沖永佳史による「帝京大学が目指す国際化」のメッセージが大きな契機となり、遠海医師や本学剣道部監督・小澤哲也を中心とした本学職員有志らによるガーナへの剣道防具の寄贈が計画されました。集まった防具は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により 3 年ぶりに開催された剣道大会にあわせてガーナ剣道協会に寄贈され、本学から 21 人分もの剣道防具が寄贈されたことで、今後もガーナ共和国において剣道がさらに広まることが期待されます。



帝京グローバルコンピテンシーの周知

2021年12月に学長のメッセージで、本学の学生、職員、教員が目指す「帝京グローバルコンピテンシー」を定めることが伝えられました。本学は教育指針に「国際性」を掲げる大学として、身近なグローバル化を意識して行動できる学生、職員、教員のコンピテンシーが重要だと考えています。2022年度は学内での周知を目指し、大学広報誌「フレア Vol.124」に特集ページを掲載したり、学内サイト、サイネージでの掲載をして周知を行いました。

帝京グローバルコンピテンシーに関する、3つ折りのパンフレットを作成し、新入生や新任教員を中心に配布しました。このパンフレットは国際化推進室が独自にデザインし、作成したものです。まず表紙で「帝京グローバルコンピテンシーってなんだろう?」という疑問から始まり、ページをめくっていくとその正体が変わり、最後は「わかった!」という理解までの流れをロジカルにデザインしたものです。カラーは明るく穏やかな色が良いという学内パブリックコメントでのご意見を取り入れました。今後も、帝京グローバルコンピテンシーの周知を徹底し、学内に浸透するような取り組みを進めてまいります。



第1回グローバルチャレンジセミナー開催

2022年11月29日、帝京大学国際化推進室の企画として、第1回グローバルチャレンジセミナーを実施しました。本セミナーは本学4つのキャンパスをオンラインでつなげ、身近にある国際化をテーマに学部や分野を超えて語るセミナーです。語学力や国際問題への興味の度合いを問わず、本学学生・教職員であればだれでも自由に参加ができます。さまざまな学部・大学院の教員による講義と学生同士のディスカッションを通して、本学の掲げる帝京グローバルコンピテンシーや「グローバル化を日常に」というコンセプトなどの具現化を目的としています。

第1回目は、「食」をテーマに、外国語学部、理工学部、公衆衛生学研究所の3名の教員によるそれぞれの分野から見た「食とグローバル」の講義を行いました。本学国際化推進室室長・外国語学部国際日本学科教授 西岡淳、同室副室長・公衆衛生学研究所准教授 井上まり子、本学理工学部バイオサイエンス学科准教授 榎元廣文がスピーカーになり、それぞれ10分程度の講義を行ったあと、3つのグループに分かれてディスカッションを行いました。キャンパス横断という形にした本セミナーでは、約20名が学部を超えて集まりました。参加者からのアンケートでは、「他学部の先生の話を知りたくて、他学部の学生と交流でき、新しい考えや視点を得ることができてよかった」という声があり、キャンパス横断・総合大学の力という形の成果がありました。引き続き、本学では学生たちが気軽に参加しグローバル化を肌で感じられるセミナーを企画していきます。



3. キャンパス

各キャンパスの代表的な活動を紹介します。

板橋キャンパス

基本情報

設置学部：

医学部、薬学部、医療技術学部

設置研究科：

医学研究科、薬学研究科、医療技術学研究科、
公衆衛生学研究科

板橋キャンパスには医療系学部が集まっており、未来の医療人を養成しています。キャンパス内には医学部附属病院があり、充実した設備のもと、総合的かつ実践的な先端医療を学ぶことができます。教育では、Bedside Clerkship (BSC) などを含む医療に特化した短期留学の実施や、学科のスケジュールに沿った独自の短期海外医療研修プログラムが展開されています。研究についても世界の研究者との共同研究が行われています。



教育活動

医学部の衛生学公衆衛生実習をベトナムで実施 (医学部)

日程：2022年7月18日～7月22日

概要：医学部5年生の衛生学公衆衛生実習（ベトナム実習）を5日間に渡り実施しました。本実習は「帝京大学とベトナム国立小児病院およびハノイ医科大学間における単位互換協定の締結」を基に、コロナ禍でありながらも3年ぶりに渡航による実施が実現しました。

「世界やアジアで発生している感染症の実状を視察、今後の医療活動に役立てる」「国際的視野にたった医療人をめざす」ことを目的とし、臨床実習、国際保健、予防医学、医療システム・アクセスの観点も含めて学習を行いました。ベトナム国立小児病院では各診療科・部門および研究室を見学、臨床実習（Bed Side Learning）を行い医療機器やベトナムの医療事情等について体得しました。ハノイ医科大学では両国における新型コロナウイルス感染状況の情報交換および感染症の地域的特性に関する講義を受け、改めて理解を深めました。また、JICA ベトナム事務所ではベトナムでの保健医療協力・支援活動およびJICAの取り組みについて知見を広めました。



看護学科海外交流プログラム オンライン（台北医学大学）9名（医療技術学部看護学科）

日程：2022年5月23日～27日

概要：5日間の台北医学大学（TMU）護理学院アウトバンドプログラムがオンラインで行われ、1年生9名が参加しました。この交流プログラム参加は新カリキュラム科目グローバル看護の単位認定必要要件になっています。

通常授業と同時期にオンラインで行われたため、学生はプログラム参加スケジュールを個別に計画しました。様々な研究アプローチから得られた知見に関する英語によるプレゼンテーションを聴講し、最終日にはプログラムに参加して得た学びを英語で発表しました。1年生には難易度の高い内容でしたが、参加学生はお互いに切磋琢磨しながら主体的・積極的に参加し、日本と台湾の医療、他国の人々とのコミュニケーションについて考え、さらに学ぶ意欲を高める機会となりました。

ハーバード特別講義を3年ぶりとなる対面で実施（公衆衛生学研究科）

日程：2023年1月5日～23日

概要：帝京大学板橋キャンパスにてハーバード特別講義を3年ぶりとなる対面で実施しました。本特別講義は、本学とハーバード大学の学術提携に基づいており、今回で11回目を迎えます。講義では活発な質疑応答が交わされ、小グループでのディスカッションを取り入れるなど、現地での講義と同様に体験することができました。なお、本講義は学内外に公開しており、一般参加のほか、本学の全キャンパスから教員や学生の参加がありました。また、渡航に制限がなかったタイとフィリピンからは、本学の学術提携校であるチュロンコン大学とフィリピン大学マニラ校の学生の参加もあり、対面ならではの学生同士の国際交流も深めることができました。

本学が提携する英国3大学を訪問（グローバルオフィス委員会）

日程：2023年3月16日～22日

概要：本学は英国 Durham にダラムキャンパスを有し、またダラム大学、ケンブリッジ大学 St Edmunds カレッジ、オックスフォード大学 Wadham カレッジと提携しています。COVID-19 パンデミックが一段落し、これから大学間交流が再開・深化することを見込んで、グローバルオフィス委員会の中田善規委員長と浅山敬副委員長が各大学を訪問し、今後の提携活動について打合せました。その際、ダラムキャンパスの小菅栄修校長が同行しました。各大学では、本学院生・教員の短期留学の受入や学位取得プログラムへの参画、また滞在中の各カレッジの利用や共同研究の可能性について活発な討議が行われ、ダラムキャンパス留学生の各大学インダクションコースの開催、ハーバード特別講義への講師招聘やイギリス国内でのシンポジウム開催などを今後2-3年以内に実施する予定としました。これら世界のトップクラス大学との提携は帝京大学の貴重な財産であり、今後は本学の学生や院生・教員が相互交流を通じて新たな学問的貢献を多くもたらすことが期待されます。



研究活動

ヒト血液脳脊髄液関門の機能解析に関する国際共同研究

代表：出口芳春 教授（薬学部）

共同研究相手：ドイツ・ハイデルベルク大学

概要：脳には血液脳関門(BBB)と血液脳脊髄液関門(BCSFB)の2つのバリアーがあり、互いに連携しながら脳を守っています。ヒトのBBBの機能は明らかにされつつありますが、BCSFBに関してはほとんど解明されていません。私たちはヒトのBCSFB細胞を樹立したドイツ・ハイデルベルク大学のSchroten教授と国際共同研究契約を結び、ヒトにおける脳の関門機能の解明に挑んでいます。

大迫研究：住民の血圧と健康に関するコホート研究

代表：大久保孝義 主任教授（医学部）

共同研究相手：ベルギー・ルーヴェン・カトリック大学、アメリカ・ジョンズ・ホプキンス大学、イスラエル・ヘブライ大学、他

概要：家庭自己測定血圧（家庭血圧）測定は、従来高血圧の診断に用いられてきた診察室血圧よりも予後予測能に優れることが示されており、他の様々なリスク因子を組み合わせて分析することによって、長期的な循環器疾患の予後や、認知機能障害やフレイル等の発症・進展を精度良く予測することができると期待されています。大迫（おはさま）研究は1986年以来、岩手県大迫町（現・花巻市）で実施されて来た国内を代表するコホート研究（長期前向き縦断研究）で、現在は国内14、海外3の大学・研究機関で共同研究を行っています。また、国内外のメタ解析プロジェクトに参画するなどの形で、住民の追跡調査と並行して、家庭血圧をはじめとする疾病リスク因子の影響に関する多角的な分析を行っています。

病原真菌の新しい薬剤耐性化メカニズムを発見

代表：山田剛 准教授（帝京大学医真菌研究センター）

共同研究相手：ローザンヌ大学病院

概要：帝京大学医真菌研究センター准教授 山田剛率いる日本の研究グループとスイス・ローザンヌにあるローザンヌ大学病院ならびにローザンヌ大学名誉教授 Michel Monod 率いるスイスの研究グループで構成される国際研究チームが、新種の白癬菌で見つかった白癬治療薬耐性菌から病原真菌の新しい薬剤耐性化メカニズムを発見しました。

その他の活動

金子教授が国際医学教育学会 AMEE 2022 Conference にて講演

日程：2022年8月27日～31日

概要：フランス・リヨンにて開催された AMEE 2022 Conference (AMEE: International Association for Medical Education) において、帝京大学医学部救急医学講座教授 金子一郎が講演を行いました。

AMEE 2022 Conference は国際医学教育学会で、フランス・リヨンにおいて久しぶりに対面形式で実施され、金子教授は、本カンファレンスに提出していた「Final Outcomes of the Successful Cooperation on the Development of the University-Standardized Basic Life Support (BLS) Skill Test」が採択されたことを受け、心肺蘇生教育に関する演題を発表しました。本内容は、本学板橋キャンパスでシミュレーション教育研究センター (TSERC) で学部横断的に取り組んでいる標準的心肺蘇生実習授業について6年間にわたる成果をまとめたもので、特に、学習者の胸骨圧迫手技の客観評価につき分析的に考察した結果を提示しました。また、Virtual patient simulator Body Interact Workshop において基調講演を行いました。これは、シミュレーションソフトウェアの使用経験と医学医療教育における東洋と西洋の文化のバックグラウンドの違いについてディスカッションを実施しました。

国立エアクアドル中央大学来訪

日程：2022年9月28日

概要：帝京大学シミュレーション教育研究センター (Teikyo Simulation Education and Research Center: TSERC) が、JICA 支援事業に関連して、国立エアクアドル中央大学の教員の施設見学を実施しました。日本におけるシミュレーション医療教育の現場を視察するため、アンヘル・アラルコン氏、ミルタ・ブチャイセラ氏、マリツァ・サンチェス氏の3名が来校し、本学板橋キャンパス大学棟にある TSERC フィジカルアセスメントユニットや循環器ルームをはじめ、救急救命士コース実習室、薬学部多目的実習室、看護学科実習室を見学し、同センターメインルームを見学しました。

見学後は、本学グローバルオフィス委員会委員長 中田善規、同委員会副委員長 井上まり子、シミュレーション教育研究センター教授 金子一郎、同センター講師 竹内保男と関係者とでウェルカムミーティングを実施し、本学のグローバルプログラムとシミュレーション医療教育の国際ネットワーク等についてディスカッションを行いました。

三枝准教授がトリノ大学で大学院講義および特別講演を実施

日程：2023年1月17日～19日

概要：トリノ大学 (イタリア) において、帝京大学薬学部臨床分析学研究室准教授 三枝大輔が大学院生に向けた講義ならびに実習を行いました。また、2023年1月23日には、同大学の教員、研究者および学生に向けた特別講演を行いました。

三枝准教授は、トリノ大学で Molecular Biotechnology Center の客員教授を兼務しており、大学院修士課程における Mass Spectrometry (質量分析) の科目を担当しています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、これまでオンラインのみの講義を実施していましたが、本年度はトリノに滞在し、講義ならびにグループワークな

どを通して大学院生に直接指導しました。トリノ大学教授 Claudio Medana 氏をはじめとする現地の学生や研究室のメンバーと互いの文化に触れ、国際交流することができました。滞在期間中には特別講演として「Molecular profiling and biomarker searching by mass spectrometry」のタイトルで、病気を早期に発見できるバイオマーカー探索研究について発表し、多くの研究者や学生と積極的なディスカッションを行いました。

杉本教授が世界内視鏡外科学会総会 2022 で Best Oral Presentation Award を受賞

日程：2022年10月5日～8日

概要：釜山 (韓国) で開催された第18回世界内視鏡外科学会総会 The 18th World Congress of Endoscopic Surgery (WCES) において、帝京大学沖永総合研究所 Innovation Lab、帝京大学医学部外科学講座教授 杉本真樹が、Plenary Session 「The metaverse and extended reality holography-guided navigation in endoscopic and robotic HPB surgery」にて Best Oral Presentation Award を受賞し、受賞講演を行いました。

世界内視鏡外科学会は内視鏡外科に関する世界最大級の学会で、このたび杉本教授が受賞した Best Oral Presentation Award は、内視鏡外科研究と臨床の発展に寄与する優秀な研究を表彰するものです。今回の受賞は、内視鏡手術およびロボット手術における、メタバースと仮想現実、拡張現実、複合現実を応用したホログラフィガイドナビゲーションの開発と臨床成果が評価されました。

血圧に関連する国際共同研究に関する合同研究会を共同開催

日程：2022年12月1日～3日

概要：24時間自由行動下血圧の国際メタ解析 IDACO (the International Database on Ambulatory Blood Pressure Monitoring)、家庭血圧の国際メタ解析 IDHOCO (the International Database of Home blood pressure in relation to Cardiovascular Outcome)、中心血圧の国際メタ解析 IDCARS (the International Database of Central Arterial Properties for Risk Stratification)、そして家庭血圧と尿プロテオミクスを主題にした共同研究 UPRIGHT-HTM (Urinary Proteomics Combined with Home Blood Pressure Telemonitoring for Health Care Reform)、以上4種の国際共同研究に参画する世界各国の研究者が一堂に会した研究会を、ベルギー・Mechelen 市で開催しました。帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座の浅山敬教授は、本会を、Leuven 大学名誉教授の Jan A. Staessen 教授と共同開催し、会の Proceedings を Blood Pressure Monitoring 誌より発刊しました。また、本学からは浅山教授に加えて同講座の大久保孝義主任教授と木村隆大学院生が現地参加し、それぞれセッション座長と研究成果報告を行いました。

八王子キャンパス

基本情報

設置学部：

経済学部、法学部、文学部、
外国語学部、教育学部、医療技術学部

設置研究科：

経済学研究科、法学研究科、文学研究科、外国語研究科
教職研究科

八王子キャンパスは多摩丘陵の豊かな自然を生かした高台に位置し、構内のあちこちからのぞむ景色が美しいキャンパスです。「SORATIO SQUARE」には、一般教室のほか、観覧席を備えたアリーナや、食堂が設置されています。また、75万冊の蔵書を備えたメディアライブラリーセンターをはじめ、国際交流のための「OUCHI COMMONS」や語学学習専用施設「Teikyo Language Commons」など、最新の施設と設備が整備されています。



教育活動

外国語学部国際日本学科の留学生がワークショップボランティアスタッフとして参加

日程：2022年8月14日

概要：外国語学部国際日本学科講師 岡葉子および非常勤講師 宮島敦子と国際日本学科に所属する留学生6人（中国2人、モンゴル2人、メキシコ1人、ベトナム1人）が、虎ノ門ヒルズ（東京都港区）にて実施された「キッズワークショップ 2022 未来の地球のためにできること」にボランティアスタッフとして参加しました。

本ワークショップは、「『しあわせ』を絵に描き、世界7カ国の友だちと話そう！」という、株式会社WTOCが主催したもので、「自分を幸せにしてくれるもの、こと」について参加者が事前に絵を描き、ワークショップ当日にグループごとに分かれて描いた絵に込めた思いを発表し、最後に全体で意見を共有しました。参加した留学生は、日本や海外出身の小学生から高校生まで幅広い年齢層の参加者たちと日本語や英語を使って積極的にコミュニケーション取っており、小学生に優しく接する姿やグループの代表として発言する姿も見られ、有意義な時間となりました。



教育学部 中山ゼミが日韓中三カ国ストーリーテリングプロジェクトの国際報告会で英語による発表を実施

日程：2022年10月9日

概要：帝京大学教育学部教授 中山京子が担当するゼミにおいて、日本・韓国・中国三カ国ストーリーテリングプロジェクトの報告会をオンラインで行いました。各国から大学教員、ユネスコのセンター職員、学生など70人以上が集い、文化多様性とESD（持続可能な開発のための教育）やSDGsをテーマに、教員養成課程の学生や大学院生が、絵本を選んで授業を作り、英語で報告しました。

本プロジェクトは、ユネスコ・アジア太平洋国際理解教育センターによる「ストーリーテリングを通じた北東アジアにおける国際理解教育および地球市民教育推進のための共同プロジェクト」の、2022年度教員養成課程の学生による日韓中三カ国交流プログラムで、本学教育学部中山ゼミは、同志社女子大学とともに日本代表として参加しました。

学生たちは、国際理解教育を専門とする大学教員の指導のもと、「文化多様性」「ESD・SDGs」をテーマに、ストーリーテリングに使用する児童図書を選択し指導案を作成（および模擬授業の実施）、三カ国合同発表会で報告するという8か月に渡るプロジェクトに取り組みました。

外国語学部国際日本学科1期生の授業がスタート

概要：2022年4月より開設の帝京大学外国語学部国際日本学科では、1期生となる新生を迎え、2022年度前期の授業がスタートしました。入学定員150人のうち50人が留学生である本学科では、普通の学生生活から日本の学生と留学生が混在する「協働学修」を追求しています。1年次では国際日本学の基礎のほか、日本人学生は英語、留学生は日本語を重点的に学びます。2年次前期には全員が「語学・文化研修プログラム」を受講し、日本人学生は海外（イギリス・ニュージーランド・オーストラリア・フィリピン・タイ・ベトナム・カンボジア）、留学生は国内（島根大学・滋賀大学）に派遣され、それぞれの地域で実践的な語学力や異文化理解能力を身につけるカリキュラムを予定しています。

研究活動

中国企業の社会的責任が企業の業績に与える影響に関する研究

代表：三竝康平 専任講師(経済学部経営学科)
共同研究相手：カッセル大学(ドイツ)及び福井県立大学
概要：中国では、企業の社会的責任(CSR)が企業の業績に与える影響が注目されていますが、R&D活動の成果(イノベーション)に対する影響については十分に明らかにされていませんでした。本研究では、大規模企業データベースである Orbis と、CSRのパフォーマンスを測定することができる Refinitiv (ESG スコアのデータベース) を利用し、特に CSR がイノベーションに与える効果について実証的に分析しました。その結果、CSR とイノベーションの成果、すなわち特許出願との間には有意な正の関係があることを確認しました。本研究は、科研費基盤研究(C)「中国企業の研究開発の成果に関する実証的研究：地方政府の産業政策と ESG 経営の視点」(2023 年度採択・研究代表者：三竝康平)です。

日中両国の脱炭素化・デジタル化を中心とする技術革新及び国際協力に関する考察

代表：郭四志 教授(経済学部経済学科)
共同研究相手：中国社会科学院、中国国際交流センター、中国吉林大学東北亜研究センター
概要：本研究では、共同研究調査を通じて、気候変動問題の深刻化や地政学的リスクの拡大など新しい情勢の下で、日中両国政府の掲げている脱炭素化・デジタル化を中心とするイノベーションを分析し、脱炭素化・デジタル化に関する両国の主な戦略的な取り組みや進展、それに伴う問題点・課題を検討し、日中両国のビジネス連携の拡大を考察しました。

教育対話分析スキームの開発

代表者：荒巻恵子 教授(教職研究科)
共同研究相手：英国ケンブリッジ大学
概要：2019 年度より英国ケンブリッジ大学 Camtree チームと「教育対話」「対話と創造的思考」「デジタル技術と対話」「教育対話における文化的、宗教的、哲学的伝統」「対話、専門性の向上、リーダーシップ」の5つをテーマに国際共同研究を進めています。このうち、「教育対話」のテーマでは、英国、日本、中国、スペイン、フランス、イタリア、メキシコなど 10 カ国の授業内の教育対話に焦点を当てスクリーンを集め分析を行いました。日本の教育対話の特徴では、生徒たちは傾聴する態度が他国より多く見られ、異論を唱えることよりも、合意形成することが多いことがわかりました。現在、「教育対話分析スキーム」の開発により、教育対話の国際基準の作成を進めています。

青年時の子どもを持つ親を対象としたアタッチメントベースドプログラム CONNECT の日本導入に伴う共同研究

代表：稲垣綾子 講師(文学部心理学科)
共同研究相手：Simon Fraser University/ Adolescent Health Lab
概要：研究代表者が開発中の青年期の子どもをもつ両親へのアタッチメントプログラムのマニュアル作成ならびに効果の検討を深めるために、共同研究者が開発したアタッチメントベースドプログラムと尺度の日本導入の許諾を得て、研究を進めています。

付加価値税制の世界的伝播に関する国際比較研究

代表：小西杏奈 講師(経済学部経済学科)
共同研究相手：フランス・パリ第一大学他
概要：本共同研究では、現在 160 カ国以上で導入され多くの国の基幹税となっている付加価値税の導入および定着の過程の比較研究を行っています。この作業を通じて、付加価値税の受容のあり方が各国で異なる要因やそれが各国の財政に与える影響を明らかにすることが目的です。研究の対象となるのは、日本、アメリカ、フランス、イタリア、スペイン、スイス、オーストラリア、カナダ、インド、ブラジルなどです。これらの国の租税政策やその歴史を研究してきた国内外の研究者との共同研究であり、そして歴史学、財政学、政治学など、多様な分野で税を研究してきた専門家によって行われる共同研究であることに本研究の特長があります。研究の成果は、国内外の学会や公開シンポジウムで広く発信しています。

食と農村地域の文化遺産化：テロワール産品の日仏比較研究から

代表：森崎美穂子 准教授(外国語学部国際日本学科)
共同研究相手：フランス・リヨン第二大学農村研究部
概要：本国際共同研究は、科研費の国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))、課題「食と農村地域の文化遺産化：テロワール産品の日仏比較研究から」により実施しています。現在の資本主義経済が「過去」をどのように高付加価値化し、とりわけ伝統的な食や農村地域をどのように文化遺産化するかについてテロワール概念を用いて解明することが目的です。2022 年は前年度に続きリヨン第 2 大学農村研究部にてフランスの山岳地帯、サヴォワ地方、ジュラ地方のテロワールチーズを事例に調査・研究を行い、3 月末に書籍『フランスチーズのテロワール戦略 風土に根づく新たな価値創出』(共編著)を刊行し、4 月のシンポジウムの開催の準備を行いました。

トルコにおける難民政策とシリア難民の保護と支援

代表：伊藤寛了 講師(経済学部国際経済学科)
共同研究相手：ウジャク大学(トルコ)
概要：トルコにおけるシリア難民の社会統合に関するデータ収集および研究協力者を求め、2023 年 3 月にコニヤ県にあるカラタイ大学の研究者 2 名を訪問しました(両名は同地のシリア難民に関する質的調査に基づく論文を執筆しており、当方からコンタクトを取り訪問に至ったもの)。訪問中にコニヤ県在住の難民および支援関係者との面談を調整し帰国後にも、トルコの支援関係者とのオンラインでの面談を実施しました。現時点では共同研究に向けた体制づくりをしているという段階ですが、今後も連携・協力関係を維持・深化させて具体的な成果を出していきます。

その他の活動

日本語資格取得支援制度・再チャレンジ支援制度導入

概要：留学生が日本語能力試験（JLPT）や、ビジネス日本語能力テスト（BJT）などの日本語資格を取得することを奨励するための制度を導入しました。資格合格者には検定料相当額を給付します。試験結果が不合格の場合でも、検定料の一部を給付する再チャレンジ支援制度も併せて導入しました。

日本語教育センター開設

概要：日本語教育センターは、八王子キャンパスに在籍する外国人留学生の日本語運用能力の向上を目的に開設しました。外国人留学生の資質や思考・日本語運用能力に合わせた体系的・かつ系統的なカリキュラム編成を行い、日本語学修の充実を図ります。また、卒業までに日本語能力試験（JLPT）「N1」に合格することにも最大限の支援を行います。

その「場の提供」として、11号館2階に開設した日本語教育センターは「和」をコンセプトに「茶室」をイメージしたデザインで学生がリラックスして学習に取り組めるような空間を用意しました。マルチメディア機器を兼ね備えた日本語学修のための専用教室のほか、日本語教育を専門とする教員に日本語学習に関する相談ができます。そして、豊富な日本語教育関連図書を使って日本語学習をすることができるなど、充実した施設で日本語学習をサポートします。



ウスビ・サコ氏による特別講演

日程：2022年11月28日

概要：帝京大学外国語学部外国語学科講師 鶴飼敦子のフランス事情Ⅱの講義で、京都精華大学教授 ウスビ・サコ氏をゲストスピーカーとしてお招きし、特別講演を行いました。サコ氏は西アフリカのマリに生まれ大学時代を中国で過ごし、1991年に来日して以来31年間日本で暮らすという経歴を持ち、2018年4月から2022年3月まで京都精華大学で学長を務めました。

当日は、和風建築のグローバル空間「OUCHI COMMONS」や、留学生が日本語を学ぶ「日本語教育センター」を見学後、「フランスとフランコフォニーに関する私の位置付け」と題し、旧フランス植民地であるマリにおけるフランス語・フランス文化とマリ文化の関係や言語・文化の多様性について講演を行いました。

第1回留学生日本語プレゼンテーションコンテストを実施

日程：2022年12月20日

概要：帝京大学八王子キャンパスにて、第1回留学生日本語プレゼンテーションコンテストを実施しました。このコンテストは、2022年4月に日本語教育センターが開設されたことをきっかけに本学初の試みとして計画され、参加した留学生たちは、日本人学生サポーターとともに「それって当たり前！？ここが不思議！日本カルチャー」をテーマに、約2ヵ月間プレゼンテーションの準備を進めてきました。

書類選考を通過した留学生スピーカー10人は、日本に来て驚いた習慣や、母国の文化との違いについて分析し、自身の考えや提案について経験を交えながら堂々とプレゼンテーションを行いました。審査を待つ間には、コンテストを観覧していた帝京大学小学校の小学5年生50人によるソーラン節と歌の披露も行われ、会場は大いに盛り上がりました。



歌舞伎ワークショップを実施

日程：2022年7月7日

概要：本学在学生、留学生、教職員を対象に、現役の歌舞伎役者・中村橋吾さんにご登壇いただき「歌舞伎ワークショップ」を実施しました。本ワークショップでは歌舞伎の基礎知識から白塗り・隈取りによる登場人物の見分け方、演技の種類などの解説を受けたほか、プロの付け打ちの音と合わせた実演も間近で観ることができ、声やたたずまい、目線、指先、足などの所作、気迫溢れる演技に会場の参加者全員が圧倒されました。歌舞伎の歴史的な背景や、日本の伝統文化を現在に伝えるための想いを知ることができ、充実したワークショップとなりました。



宇都宮キャンパス

基本情報

設置学部：

理工学部、医療技術学部、経済学部

設置研究科：

理工学研究科、経済学研究科、医療技術学研究科

春の桜が美しい、宇都宮の緑豊かな高台に位置するキャンパスは、東京ドーム 6 個分の広大な敷地を誇り、主に理工学部の実習室などが整う各学科棟が、整然と配置された機能的な構内です。専門分野に特化した施設、最新の研究設備が充実しています。



教育活動

国際青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプログラム」を実施

日程：2022年12月12日～17日

概要：帝京大学宇都宮キャンパスにて、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が主催する交流事業「さくらサイエンスプログラム」の一環として、本学の協定校であるウシャク大学（トルコ）の教員・学生 9 人を受け入れました。今回のプログラムでは、実習実験、講義、研究内容のプレゼンテーションを通して、日本の最先端な科学技術に触れる機会や学生との交流、日本文化の体験などを実施しました。ウシャク大学からも現在の研究テーマや内容のプレゼンテーションがありました。双方の専門分野が共通していることから、本学の学生や教員も熱心に耳を傾け積極的に意見交換をする様子が見られました。



トルコ・ウシャク大学からの交換留学生受入れ

大学名：ウシャク大学（トルコ）受入人数：1名

受入先：機械・精密システム工学科

期間：2022年10月1日～2023年1月31日

概要：ウシャク大学大学院生1名が交換留学生として、2022年10月から2023年1月の4か月間、本学理工学部機械・精密システム工学科教授 加藤彰の指導のもと自動車工学に関する研究を行いました。2023年1月24日には研究発表会を実施し、“Study on Power Consumption Improvement Method of Electric Vehicles by Mode and Real Driving Test” の題目で、交換留学生が発表を行いました。交換留学生にとってはこの4か月間で自身の研究を深めることができ、加藤研究室の所属学生は交換留学生とコミュニケーションをとりながら研究をしていく中で積極性や英語力が増すなど、帝京大学とウシャク大学双方にとって素晴らしい交流となりました。



国際交流イベント：バドミントン大会

日程：2023年1月7日

概要：留学生と日本人学生の交流を目的として、キャンパス内の体育館でバドミントン大会を実施しました。留学生と日本人学生がペアになり、ダブルスの試合を行いました。学生たちは初めうちは緊張した様子でしたが、試合をしていくうちに会話が弾むようになりました。

スポーツをきっかけに大学でのコミュニケーションが活発になることも期待しています。



2022年度デンバー研修（柔道整復学科）

研修先：アメリカ 北コロラド大学、レジス大学等

日程：2023年3月1日～9日

参加者：学生36名（宇都宮キャンパスから引率教員1名、学生7名）

概要：帝京平成大学（THU）主催の理学療法士やアスレティックトレーナー（AT）を目指す学生を対象とした、コロラド州デンバー市での約10日間の海外研修プログラムに、宇都宮キャンパス柔道整復学科の学生が参加しました。本プログラムは柔道整復学科として初めて実現した海外研修プログラムです。現地で研修中の学びを最大限に高めるために事前研修会もオンラインで実施されました。ATの本場といわれているアメリカで、現地のAT育成教員やプロトレーナーから指導を受けたことに加えて、現地の教員や学生と交流する機会もあったことで、日本とアメリカの環境の違いやAT育成システムの違いなど様々なことを知ることができる充実した研修プログラムとなりました。



その他の活動

留学生と地域の交流活動：豊郷まつりへの参加

日程：2022年11月13日

参加人数：留学生21名、日本人学生1名

概要：宇都宮キャンパスの所在する豊郷地区のまつりにボランティアとして留学生が参加し、地域住民との交流を図りました。留学生は来場者の案内誘導、ステージの準備や飲食物の模擬店の手伝いなどをしました。



宇都宮市主催・多文化共生フォーラムへの参加

日程：2023年2月19日

参加者：留学生4名

概要：宇都宮市主催の多文化共生フォーラムは外国人市民と日本人市民のワークショップによる交流を通して、多文化共生の理解を促進することを目的としています。このフォーラムにパネリストとして本学留学生が参加しました。「みんなではなそう多文化共生のまち宇都宮♪」のテーマのもと、母国での過ごし方や宇都宮市で生活を通じて感じていることを話しました。留学生と宇都宮市民にとって、多文化共生への理解を深める貴重な機会となりました。

宇都宮北高校との英語での交流会への参加

日程：2023年2月22日

参加者：留学生11名

概要：栃木県立宇都宮北高等学校にて行われた英語での交流会に留学生が参加しました。高校1年生のクラスで、出身国、大学生活、将来の夢について英語で話し、生徒からの質問に回答しました。また、各クラスの代表の生徒によるSDGsに関わるテーマのプレゼンテーションを聞いて、留学生は積極的にコメントや質問をしていました。双方が英語でのコミュニケーション能力を高め、国際理解を深めることができました。



福岡キャンパス

基本情報

設置学部：

福岡医療技術学部

設置研究科：

保健学研究科

福岡キャンパスでは医療系学科が集まっており、最新の設備のもと、地域医療を支えるための高度な専門知識を持つ医療人材を育成しています。

福岡医療技術学部では、希望者制でアメリカコロラド州デンバーを拠点とした海外研修を実施しています。現地での研修・見学を通して、日本とは異なる視点から医療を体験できる機会があります。



教育活動

コロラド州立大学 加藤宝光准教授による国際交流セミナー（特別講義）の実施

日程：2022年7月14日～2022年7月15日

対象者：福岡キャンパス 全学科 1年生／診療放射線学科 1～4年生、保健学研究科

概要：コロラド州立大学 環境放射線保健科学学部の加藤宝光准教授を招聘し、2日間にわたり、国際交流セミナー（特別講義）を開催しました。全学科 1年生を主な対象とした「アメリカ留学、進学により広がる医学系専門職への可能性」と、診療放射線学科の1～4年生および保健学研究科の1～3年生を主な対象とした「アメリカにおける放射線生物学研究および研究環境について」の2つのテーマを基に講演を行いました。また、国際交流委員会委員とのコロラド州立大学への短期研修に関するミーティングおよび診療放射線学科教員との共同研究の可能性についてのミーティングを実施し、大変有意義な2日間となりました。



2022年度 オンライン海外研修（Virtual Exchange Program）

日程：2022年9月26日～2023年1月12日全15回

参加者：11名（内訳：学部生6名、教員5名）

概要：学生へ質の高い修学の機会と海外の学生との交流の場を提供し、「国際的視野に立って物事を判断できる」人材の育成をめざし、2021年度に引き続き、オンライン海外研修（Virtual Exchange Program）を実施しました。全15回のプログラムにおいて、360°カメラを使用したアメリカの医療施設のバーチャル・ツアー、海外の医療技術者や大学の講師によるオンライン講義、解剖学に関するVR講義を行いました。また、「グローバルヘルス」をテーマとして、海外の大学の学生・教員との日米学生合同発表会・交流会を実施しました。発表会では、米国の学生と共同で作成した資料をもとにプレゼンテーションを行いました。



ザンビア大学附属教育病院（附属国立心臓血管外科病院）への医療技術支援報告会の実施

日程：2022年11月30日

対象者：福岡キャンパス 医療技術学科 臨床工学コース 1～4年生

概要：学生が海外医療支援を含めた自身の将来の選択肢を広げることや、ザンビア共和国などの発展途上国における医療の現状を知ることを目的として、医療技術学科 廣浦 学 教授による「ザンビア大学附属教育病院（附属国立心臓血管外科病院）への医療技術支援」をテーマとした報告会を行いました。報告会は、廣浦教授が特定非営利法人 TICO の活動として継続的に参加している、ザンビア大学附属教育病院（附属国立心臓血管外科病院）での臨床工学技士養成の教育および実技指導を基に話がなされました。学生 11 名、教員 5 名、計 16 名が参加しました。

その他の活動

タイ王国（バンコク）Kaigo house における介護技術指導としての講義および実技指導

代表：丸山倫司 講師（理学療法学科）

関係者：株式会社 SENSTYLE

日程：2022年11月10日～2022年11月13日

概要：介護技術指導として現地スタッフ向けの講義を実施しました。Kaigo house は、現地高所得者向けの介護施設であり、公的介護保険の整備がない同国ではまだ少ない業種です。介護職養成学校も併設しています。現地スタッフも日本と比べて業態自体が固まっておらず、相当な教育レベルの引き上げが必要とされています。講義は基本動作、なかでも立ち上がり動作に限定して講義実技を行いました。技術指導が求められていることは大いに理解できましたが、基礎教育（医学知識）も要します。リクエストに応じて、寝返り・立ち上がりまでの実践指導も行いました。施設オーナーからは満足が得られましたが、同国にて介護業が定着し安定するには、相当な技術支援やその方策が必要です。SENSTYLE 社が Kaigo house と業務提携の予定であることから、今後依頼があった場合は、今回の知見を踏まえて、段階的な教育を計画し、その段階を評価しながら研究に繋げる予定です。



オーストリア（ウィーン）国際原子力機関本部における IAEA 会合（Consultancy Meeting on Photonuclear Fission Data for EXFOR Library）への参加

代表：牧永綾乃 講師（診療放射線学科）

日程：2022年11月21日～2022年11月30日

概要：IAEA 会合（Consultancy Meeting on Photonuclear Fission Data for EXFOR Library）へ参加しました。EXFOR ライブラリは、世界各地で行われた原子核物理学実験の論文から測定データ情報を収集したデータベースです。医療分野、エネルギー分野等、幅広い分野で利用されています。会合では、原子核データベース(EXFOR)の整備について議論を行い、登録対象となる放射線計測データの選定・登録を行いました。

ダラムキャンパス



基本情報

所在地

Lafcadio Hearn Cultural Centre, Mill Hill Lane, Durham, DH1 3YB, UK

設立 1990 年

帝京大学が英国北東部に位置するダラム市に 1990 年に開設したキャンパス。日本の大学が海外に所有している数少ないキャンパスの一つです。

キャンパスは名門ダラム大学に隣接しており、ダラム市は学生の街で治安もよく、ダラム大聖堂などの世界遺産や緑に囲まれた環境にあります。ダラム大学とはスポーツ交流やダラム大学生のランゲージパートナー制度など教員・学生レベルでの交流機会が多く、本格的な英語を習得できます。

本学の職員も在住しているため、学習や生活面でのサポート体制も十分に整っており、留学生には安心な環境を提供しています。また、ダラム留学中に受講する科目は最大 22 単位まで取得できるため、休学することなく留学を経験できます。

主な活動

ダラムキャンパス春期と秋期の定期留学コースに帝京大学および帝京平成大学から留学生を受け入れている他に、外国語学部 2 年次全員留学の派遣先にもなっています。また 2023 年 4 月からは外国語学部国際日本学科 2 年次の語学・研修プログラムの受け入れを開始する予定です。

奨学特待生コースがあることもダラム留学の特徴であり、一定の英語力と学業成績を修めている学生に対して、奨学金を支給して留学を促進する制度を設けています。

学習面では能力別クラスに分かれ、「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 技能の向上を目指して、英国人講師による本格的な指導を受けることができます。留学期間には定期的に TOEIC や IELTS などの語学試験を受験して実力レベルを測定します。また専門家によるゲストレクチャーを行っており、英国文化や時事問題の分野の講義を通して英語力の向上に役立っています。

生活面では留学生は滞在中、ダラム大学の 4 つのカレッジに所属することになり、各カレッジ内で食事やクラブ活動や各種行事に参加をしながら、ダラム大生とのコミュニケーションを深めていきます。

校外体験では、希望する学生に職場体験プログラムを用意しており、キャンパス近くの保育所や理容室で実際に英国の職場文化に触れながら、英語力のみならず異文化コミュニケーション能力を身につけます。また学校訪問プログラムでは地元の小中学校を訪れて、日本語や日本文化（書道、折り紙、浴衣の着付けなど）を教える体験をしています。

2022 年度はコロナ禍から 3 年ぶりに留学プログラムを再開し、43 名の学生を受け入れキャンパスに活気が戻ってきました。また校長と事務長が交代となり、新体制の下でキャンパス運営に取り組んだ年度となりました。その一例に、英国 3 大学（オックスフォード・ケンブリッジ・ダラム）との連携強化が挙げられ、公衆衛生分野での学術交流計画の立案や、キャンパスにゲスト講師を招いて講義を実施しています。

ダラムキャンパス留学年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◆ダラム春期留学	■											
◆国際日本学科 語学研修プログラム	■											
◆ダラム秋期留学							■					
◆外国語学部全員留学							■					
◆春期短期留学												■

4.センター・研究所

先端総合研究機構

先端総合研究機構（先端総研）は、本学の持つ研究シーズとニーズの価値を高めるとともに、その知見に基づき、社会の発展に貢献し以って本学の研究力を高めることを目的としています。

言語の起源と進化に関する国際共同研究

代表：岡ノ谷一夫 教授（先端総合研究機構）

研究協力（学内）：なし

共同研究相手：イスラエル国際高等研究所

概要：課題について国際的な業績を持つ研究者10名（20代～70代、男女同数）を糾合し、議論を重ねた。集まった研究者の専門分野と研究機関所在国は、自然言語としての手話の形成過程（米国）、統計的学習とZipf則との関係（イスラエル）、化石人骨からのDNA抽出と発声関連遺伝子のエピジェネティクス（イスラエル）、動物コミュニケーション音声の複雑化過程（日本・岡ノ谷）、言語起源の理論と生物音楽学（ウィーン）、霊長類飼育集団の記号伝達と文化進化（フランス）、文化進化の理論と実験（英国）、様式化の進化に及ぼす集団サイズの影響（オランダ）、系列記憶の世代伝達による規則性の生成過程（イスラエル）、言語関連遺伝子の網羅的探索と脳画像データとの対応関係（オランダ）でした。議論の成果は10名の共著により複数の論文として執筆しています。



AAAI Spring symposium 2023 Socially Responsible AI for Well-being を主催

日程：2023年3月27日～29日

概要：城戸隆 教授（先端総合研究機構）が、AAAI Spring symposium 2023, Socially Responsible AI for Well-beingをサンフランシスコにおいて主催しました。本会議は、American Association of Artificial Intelligence (AAAI)が主催し、本シンポジウムを含9つのトピックのシンポジウムが開催されました。これまでAAAI Symposiaは秋と春に毎年2度、米国で開催されており、春の開催地はスタンフォード大学であり、自由でカジュアルな雰囲気での会議です。COVID19感染拡大の影響でオンラインと現地主催のハイブリッド開催としました。本会議は、我々が2015年に開催したAAAI Spring symposium "Ambient Intelligence for Health and Cognitive Enhancement"[AIHCE15]を起点として境界領域開拓を目指して主催を続けてきた会議です。現代の情報技術が生産性を高めることに重点が置かれてきたという認識のもと、Well-being computingでは、人間の幸福感を高める情報技術の探究を目指し、"AI meets Health and Happiness Science"というサブタイトルにもあるように、人工知能と人間の健康と幸福学との接点を模索しました。

ウズベキスタン・日本青年技術革新センター訪問

日程：2022年10月29日～2022年11月7日

概要：植田利久 教授（先端総合研究機構）が帝京大学とMOUを締結しているウズベキスタン・日本青年技術革新センターを訪問し、「Fundamentals of Multi-Component Fluid Dynamics」を演題に講演しました。訪問期間中、関係省庁を訪問し、とくにエネルギー環境分野での今後の教育研究の展開について意見交換を行いました。その結果、2023年度に国際協力機構の国別研修を帝京大学で実施することとなりました。また、ウズベキスタンの地域共同組織であるマハラのひとつを訪問し、分散型エネルギーを利用する際の管理組織としての可能性を検討しました。



帝京大学アジア国際感染症制御研究所（ADC）

帝京大学アジア国際感染症制御研究所は、世界的視野に立った感染症制御に関わる研究・教育を推進するために2013年6月1日に設立されました。本研究所は、アジア諸国との国際交流を行い、感染症制御に関して、感染症研究部門・生物統計部門・医療経済部門・国際感染症ネットワーク部門との共同研究を通して、グローバルヘルスに貢献することをめざしています。また、患者と医療者が共に安心と信頼に基づいた社会の構築をめざし、新たな視点から、医学、医療、保健の進歩に貢献することを目的としています。

日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンス招へいプログラム」を実施（ADC）

日程：2023年2月27日～2023年3月8日

概要：科学技術振興機構（JST）の採択事業である2022年度日本・アジア青少年サイエンス交流事業さくらサイエンス招へいプログラムが実施され、帝京大学アジア国際感染症制御研究所（ADC）がベトナムより医師6名、看護師2名、研究者1名の計9名を研修生として受け入れました。今年度は「感染症医療におけるベトナムとの協力体制の強化と適切な感染制御技術の習得」のテーマのもと、本学医学部附属病院安全管理部での医療安全に関する講義、微生物学講座、小児科・感染制御部・ME部による病院ラウンド、薬剤部での研修、他医療機関学外施設への訪問・見学などを実施しました。また、本学シミュレーション教育研究センターにて、アメリカ心臓協会（AHA）による心肺蘇生シミュレーション研修を受講し、研修生全員がAHAの受講証を獲得することができました。



帝京大学医真菌研究センター

医真菌学の発展のための教育および研究を精力的に行っている研究機関です。真菌症の診断・治療法の開発をはじめとし、医真菌学において多岐にわたる研究を行いながら、一方で病原真菌株の収集保存および分譲を行っています。

ライム病の伝播を担うマダニの低温耐性ならびにライム病病原体の検出に関する研究

代表：宮下惇嗣 講師（医真菌研究センター）

研究協力（学内）：ダルハウジー大学(カナダ)

概要：人類は感染症を克服できていません。感染症を克服するためには、感染のメカニズムを理解し、適切な治療標的を定めた上で、有効な化合物を創出・開発することが重要です。私たちは、昆虫等の無脊椎動物をモデルに用いて、病原体の感染過程の理解や治療薬の創出に取り組んでいます。特に無脊椎動物は、自然免疫と呼ばれるヒトと共通した免疫システムによって感染防御を果たしているため、自然免疫を標的の一つとした感染制御方策の開発に有用です。私たちは、化学療法やワクチンを補完する新しい感染制御戦略として自然免疫に着目し、既存の化学療法やワクチンを補完する感染制御戦略の創出を目指しています。

帝京大学文化財研究所

帝京大学文化財研究所はシルクロード総合学術センターと文化財科学研究センターの2つの研究センターで構成されており、より幅広く文化財・文化遺産を対象とする学際的な調査・研究を行います。文系と理系、歴史学と考古学・文化財学、研究と保存と教育が融合一体化した新しいかたちの大学研究所です。設立当初より埋蔵文化財の調査研究を行う部門と、各種分析・保存科学・保存処理を行う文化財科学部門によって構成され、長年社会に貢献してきました。2012年4月からは、帝京大学の研究所として新たに発足し、埋蔵文化財の調査研究にとどまらず、文化遺産の保護活用など、幅広く文化財を題材とした高水準な研究と教育を世界に発信しています。

シルクロードの国際交易都市スィヤブの成立と変遷－農耕都市空間と遊牧民世界の共存

代表：山内和也 教授（文化財研究所）

共同研究相手：キルギス共和国国立科学アカデミー

概要：帝京大学文化財研究所（帝京大学シルクロード学術調査団、団長：山内和也）とキルギス共和国国立科学アカデミーは、両機関間の合意書に基づき、2016年からキルギス共和国北部に位置するアク・ベシム遺跡において発掘調査を実施しています。本研究は科研費（基盤研究(S)「シルクロードの国際交易都市スィヤブの成立と変遷－農耕都市空間と遊牧民の世界－（代表：山内和也）」）および学校費（文化財研究所予算）によるものです。2022年度の調査では東方キリスト教会址および唐王朝の最西端の軍事拠点である碎葉鎮城址で発掘を行い、その構造や年代の解明に大きな成果を挙げています。

中央ユーラシア世界における古代銅合金生産の起源とその伝播に関する研究

代表：藤沢明 准教授（文化財研究所）

共同研究相手：イラン国立博物館およびイラン文化遺産・工芸・観光庁

概要：人類史において金属利用の開始とその発展が文化の形成に大きな役割を果たしてきました。その中でも銅合金は人類が最初に利用した金属であることから、文明や文化を大きく変えてきました。銅合金の起源候補地はコーカサスであり、その後西アジアや中央アジアへと広がっていくことが、従来の形態学的研究によって明らかとなっています。しかし、文化間で何がどのような方法で伝わったのかは不明のままです。そこで本研究は、コーカサス（ジョージア）から西アジア（イラン・イスラム共和国）および中央アジア（キルギス共和国）に至る中央ユーラシア世界の銅合金製文化財を対象に、材料、加工技術、形態の3要素について、自然科学的手法を用いて包括的に検討しています。

Ⅲ.資料

2022 年度更新協定一覧（大学間のみ掲載）

5 カ国 4 大学・2 機関

国	大学名	更新日	有効期間
インドネシア	バンドン工科大学	2022年6月	5年
イギリス	ダラム大学	2022年7月	5年
タイ	コンケン病院	2022年12月	3年
スイス	ヴォー保健科学大学	2023年1月	5年
フィリピン	デ・ラ・サール大学ダスマリニャス	2023年1月	5年
-	国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）	2023年3月	5年

外国人留学生在籍者数

※留学生とは在留資格が「留学」である学生をいう。

学部：経済・法・文・外国語・教育

学部	学科	留学生数（人）				
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
文学部	日本文化学科	22	34	48	50	43
	史学科	12	18	19	26	22
	社会学科	21	33	42	57	67
	心理学科	57	80	83	84	82
	文学部合計	112	165	192	217	214
外国語学部	外国語学科	38	48	49	51	47
	国際日本学科	—	—	—	—	39
	外国語学部合計	38	48	49	51	86
教育学部	教育文化学科	22	24	30	31	40
	初等教育学科	0	0	0	0	0
	教育学部合計	22	24	30	31	40
経済学部	経済学科	105	127	138	124	113
	国際経済学科	37	51	70	87	58
	地域経済学科	9	13	19	19	14
	経営学科	271	301	317	317	284
	観光経営学科	80	92	103	86	67
	経済学部合計	502	584	647	633	536
法学部	法律学科	10	16	21	25	32
	政治学科	1	1	2	2	3
	法学部合計	11	17	23	27	35
	合計（留学生数/人）	685	838	941	959	911

※各年度 5 月 1 日付の集計結果

学部：医学・医療技術・薬学・理工

学部	学科	留学生数（人）				
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
医学部	医学科	0	0	0	1	1
	医学部合計	0	0	0	1	1
薬学部	薬学科	1	5	6	7	6
	薬学部合計	1	5	6	7	6
理工学部	機械・精密システム工学科	35	41	38	28	23
	航空宇宙工学科	2	3	5	5	6
	情報電子工学科	38	42	50	49	38
	バイオサイエンス学科	21	25	23	22	22
	情報科学科通信教育課程	0	0	0	0	0
	理工学部合計	96	111	116	104	89
医療技術学部	視能矯正学科	0	0	0	0	0
	看護学科	0	0	0	0	0
	診療放射線学科	0	0	0	0	0
	臨床検査学科	1	2	2	2	2
	スポーツ医療学科	5	6	7	7	7
	柔道整復学科	0	0	0	0	0
	医療技術学部合計	6	8	9	9	9
福岡医療技術学部	理学療法学科	0	0	0	0	0
	作業療法学科	0	0	0	0	0
	看護学科	0	0	0	0	0
	診療放射線学科	0	0	0	0	0
	医療技術学科	0	0	0	0	0
	福岡医療技術学部合計	0	0	0	0	0
	合計（留学生数/人）	103	124	131	121	105

※各年度 5月1日付の集計結果

大学院（修士課程）

研究科	専攻	留学生数（人）		
		2020年度	2021年度	2022年度
文学研究科	日本文化専攻	2	2	5
	日本史・文化財学専攻	0	0	1
	臨床心理学専攻	1	2	3
	心理学専攻	—	—	—
	文学研究科合計	3	4	9
経済学研究科	経済学専攻	7	8	11
	経営学専攻	42	41	27
	地域経済政策学専攻	0	1	1
	経済学研究科合計	49	50	39
法学研究科	法学専攻	0	0	0
	法学研究科合計	0	0	0
理工学研究科 理工学研究科（通信教育課程）	総合理工学専攻	5	9	14
	情報科学専攻	0	0	0
	合理工学研究科合計	5	9	14
医療技術学研究科	視能矯正学専攻	0	0	0
	看護学専攻	0	0	0
	診療放射線学専攻	0	0	0
	臨床検査学専攻	0	0	0
	救急救護学専攻	0	0	0
	スポーツ健康科学専攻	—	0	0
	柔道整復学専攻	0	0	0
	医療技術学研究科合計	0	0	0
外国語研究科	超域文化専攻	4	4	1
	外国語研究科合計	4	4	1
保健学研究科	診療放射線科学専攻	0	0	0
	看護学専攻	0	0	0
	保健学研究科合計	0	0	0
教職研究科	教職実践専攻	0	0	0
	教職研究科合計	0	0	0
公衆衛生学研究科	公衆衛生学専攻2年コース	0	1	1
	公衆衛生学専攻1年コース	0	0	0
	公衆衛生学研究科合計	0	1	1
研究科等関係課程	総合データ応用プログラム	—	—	0
	研究科等関係課程合計	0	0	0
	合計	61	68	64

※各年度5月1日付の集計結果

大学院（博士課程）

研究科	専攻	留学生数（人）		
		2020年度	2021年度	2022年度
医学研究科	医学専攻	1	0	0
	医学研究科合計	1	0	0
文学研究科	日本文化専攻	0	0	0
	日本史・文化財学専攻	0	0	0
	心理学専攻	0	0	0
	文学研究科合計	0	0	0
薬学研究科	薬学専攻	0	0	0
	薬学研究科合計	0	0	0
経済学研究科	経済学専攻	2	2	0
	経営学専攻	1	1	2
	経済学研究科合計	3	3	2
法学研究科	法律学専攻	1	0	0
	法学研究科合計	1	0	0
理工学研究科	総合理工学専攻	1	0	0
	理工学研究科合計	1	0	0
医療技術学研究科	視能矯正学専攻	0	0	0
	看護学専攻	0	0	0
	診療放射線学専攻	0	0	0
	臨床検査学専攻	0	0	0
	医療技術学研究科合計	0	0	0
外国語研究科	超域文化専攻	0	0	0
	外国語研究科合計	0	0	0
保健学研究科	診療放射線科学専攻	0	0	0
	保健学研究科合計	0	0	0
公衆衛生学研究科	公衆衛生学専攻博士後期課程	0	0	0
	公衆衛生学研究科合計	0	0	0
研究科等連係課程	医療データサイエンスプログラム	0	0	0
	研究科等連係課程合計	0	0	0
	合計	6	3	2

※各年度 5月1日付の集計結果

学生の海外派遣実績

キャンパス	前期・後期	留学先 (国名)	留学先(機関)	留学開始	留学終了	留学期間	参加人数
八王子	前期	イギリス	帝京ロンドン学園	2023年3月6日	2023年3月28日	3週間	29名
		ドイツ	旧ベルリンキャンパス	2023年2月12日	2023年3月5日	3週間	11名
		オーストラリア	グリフィス大学	2023年2月11日	2023年3月4日	3週間	15名
		イギリス	帝京大学ダラムキャンパス	2022年4月6日	2022年9月4日	5か月	19名
		韓国	済州大学	2022年2月3日	2022年12月23日	10か月	2名
		韓国	崇実大学	2022年2月15日	2022年12月24日	10か月	2名
		韓国	嘉泉大学	2022年2月14日	2022年12月23日	10か月	2名
	後期	イギリス	帝京大学ダラムキャンパス	2022年9月3日	2023年2月6日	5か月	10名
		韓国	済州大学	2022年8月29日	2022年12月24日	3か月	1名
		韓国	済州大学	2022年8月29日	2023年6月24日	9か月	1名
		韓国	崇実大学	2022年8月27日	2023年6月24日	10か月	2名
		韓国	嘉泉大学	2022年8月24日	2022年12月17日	3か月	2名
		韓国	嘉泉大学	2022年8月24日	2023年7月3日	10か月	1名
		韓国	東亜大学	2022年8月26日	2023年6月24日	10か月	2名
宇都宮	前期	オーストラリア	グリフィス大学	2023年2月11日	2023年3月4日	3週間	1名
		アメリカ	北コロラド大学・レジス大学他	2023年3月1日	2023年3月9日	1週間	7名
		イギリス	帝京ロンドン学園	2023年3月6日	2023年3月27日	3週間	3名
板橋	前期	イギリス	帝京ロンドン学園	2023年3月6日	2023年3月28日	3週間	5名
		ドイツ	旧ベルリンキャンパス	2023年2月12日	2023年3月5日	3週間	1名
		オーストラリア	グリフィス大学	2023年2月11日	2023年3月4日	3週間	5名
	後期	タイ	マヒドン大学	2022年8月25日	2022年8月28日	1週間	3名
		ベトナム	ハノイ医科大学	2022年7月17日	2022年7月23日	1週間	6名
福岡	前期	イギリス	帝京ロンドン学園	2023年3月6日	2023年3月28日	3週間	3名

学部・学科・研究科英語名称

学部・学科・研究科等	
帝京大学	Undergraduate (Teikyo University)
文学部	Faculty of Liberal Arts
日本文化学科	Department of Japanese Cultures
史学科	Department of History
社会学科	Department of Sociology
心理学科	Department of Psychology
外国語学部	Faculty of Language Studies
外国語学科	Department of Language Studies
国際日本学科	Department of Global Japanese Studies
教育学部	Faculty of Education
教育文化学科	Department of Education and Culture
初等教育学科	Department of Elementary Education
経済学部	Faculty of Economics
経済学科	Department of Economics
国際経済学科	Department of International Economy
地域経済学科	Department of Regional Economics
経営学科	Department of Business Administration
観光経営学科	Department of Tourism Management
法学部	Faculty of Law
法律学科	Department of Law
政治学科	Department of Political Science
医学部	School of Medicine
医学科	Department of Medicine
薬学部	Faculty of Pharma-Science
薬学科	Department of Pharma-Science
理工学部	Faculty of Science and Engineering
機械・精密システム工学科	Department of Mechanical and Precision Systems
航空宇宙工学科	Department of Aerospace Engineering
バイオサイエンス学科	Department of Biosciences
情報電子工学科	Department of Information and Electronic Engineering
情報科学科 (通信教育課程)	Department of Information Science Correspondence Course
医療技術学部	Faculty of Medical Technology
視能矯正学科	Department of Orthoptics
看護学科	Department of Nursing
診療放射線学科	Department of Radiological Technology
臨床検査学科	Department of Clinical Laboratory Science
スポーツ医療学科	Department of Sport and Medical Science
柔道整復学科	Department of Judo Therapy
福岡医療技術学部	Faculty of Fukuoka Medical Technology
理学療法学科	Department of Physical Therapy
作業療法学科	Department of Occupational Therapy
看護学科	Department of Nursing
診療放射線学科	Department of Radiological Technology
医療技術学科	Department of Medical Technology

帝京大学大学院	Graduate School (Teikyo University)
医学研究科	Graduate School of Medicine(Doctoral Degree Program)
文学研究科	Graduate School of Liberal Arts(Doctoral and Master's Degree Programs)
薬学研究科	Graduate School of Pharma-Science(Doctoral Degree Program)
経済学研究科	Graduate School of Economics(Doctoral and Master's Degree Programs)
法学研究科	Graduate School of Law(Doctoral and Master's Degree Programs)
理工学研究科	Graduate School of Science and Engineering(Doctoral and Master's Degree Programs)
医療技術学研究科	Graduate School of Medical Care and Technology(Doctoral and Master's Degree Programs)
外国語研究科	Graduate School of Languages and Cultures(Doctoral and Master's Degree Programs)
保健学研究科	Graduate School of Health Sciences(Doctoral and Master's Degree Programs)
教職研究科 (専門職大学院)	Graduate School of Teacher Education(Master's Degree Program)
公衆衛生学研究科	Graduate School of Public Health(Doctoral and Master's Degree Programs)

編集後記

帝京大学国際化アニュアルレポート 2022 をお届けいたします。第 2 号となる本号は、新型コロナウイルス感染症により制限されていた海外との行き来がようやく再開したことを受け、「海外との交流活動の再開」をテーマに本学の国際的な活動を集めることとなりました。

国際化推進室は 2021 年 4 月に設置されて以来 2 年目となりますが、2022 年度は国際化推進室としては「挑戦の 1 年」となりました。皆様にご協力いただきながら、学食イベントや 4 キャンパス合同のオンラインセミナーを開催し、国際交流教育大会へ参加するといった動きは、国際的な活動・環境に触れる機会の創出やグローバルマインドの醸成を図る大きな一歩であったと思います。

帝京大学の学生・教員・職員ひとりひとりがグローバルマインドを意識し、グローバル化が日常となることで、皆様の学び・研究・仕事のどこかで必ずグローバル社会と結びついていくことになるかと思っています。そのために、国際化推進室はより一層、皆様が身近なグローバル化へ取り組むためのサポートをしていきます。

最後に、ご多忙にもかかわらず原稿および資料提供の依頼をご快諾いただき、執筆にあたってご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

2024 年 1 月

編集担当

帝京大学 国際化アニュアルレポート 2022

2024 年 5 月発行

編集・発行 帝京大学 国際化推進室

【TEL】

板橋オフィス（本部棟 5 階） 03-3964-9044（外線）/20580（内線）

八王子オフィス（11 号館 2 階） 042-678-3306（外線）/3306（内線）

【email】

globalio@teikyo-u.ac.jp（国際化推進室共有）